

令和7年度
プラスチックごみおよび食品ロス削減
取組ガイドブック

イベント・大会編



令和7年(2025年)12月
滋賀県



滋賀県は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



Mother Lake
Goals



しがCO2ネットゼロ
ムーブメント



毎月ついたち
しがチャレンジ2030の日

令和7年度

プラスチックごみおよび食品ロス削減 取組ガイドブック

イベント・大会編

はじめに、多くの人が集まるイベントや大会は、地域のにぎわいや交流を生み出す大切な場です。一方で、使い捨てプラスチックごみや食品ロスが多く発生し、環境への負荷となることもあります。こうしたごみを減らす工夫をイベントなどで実践することは、来場者の意識を変え、持続可能な社会づくりにもつながります。本冊子では、プラスチックごみや食品ロス削減の県内外での取組事例を中心に紹介します。身近なイベントから、環境にやさしい取組を広げていきましょう。

INDEX

| | | |
|-----------|---------------------------|----|
| 〈FILE〉 01 | マイボトル洗浄機の導入 | 4 |
| | 大阪・関西万博 | |
| 〈FILE〉 02 | 食品ロス削減アプリ「万博タベスケ」 | 5 |
| | 大阪・関西万博 | |
| 〈FILE〉 03 | 給水スポットの設置 | 6 |
| | 大阪・関西万博 | |
| 〈FILE〉 04 | 食品ロス削減 | 7 |
| | 第72回全国植樹祭 | |
| 〈FILE〉 05 | プラスチックごみ削減 | 8 |
| | 第72回全国植樹祭 | |
| 〈FILE〉 06 | マイボトル持参の推進 | 9 |
| | わたSHIGA輝く国スポ・障スポ | |
| 〈FILE〉 07 | リユース食器使用・分別の推進 | 10 |
| | わたSHIGA輝く国スポ・障スポ | |
| 〈FILE〉 08 | Mylはし推進運動 | 11 |
| | 滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭 | |
| 〈FILE〉 09 | Dish Return Project (DRP) | 12 |
| | 滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭 | |
| 〈FILE〉 10 | ごみ分別 | 13 |
| | 滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭 | |

イベントなどにおけるプラスチックごみの問題

プラごみ削減 取組



しがプラスチックチャレンジ
プロジェクトキャラクター
湖神挑一くん

近年、様々なイベント、大会や祭り、マルシェなど多くの人が集まる場では、飲料カップやストロー、食品容器、買い物袋など、使い捨てプラスチックが大量に使用されています。これらの多くは短時間で廃棄され、分別が不十分なまま可燃ごみとして処理されるなど、環境負荷を増やすことにもなります。環境負荷を減らし、限りある資源を有効に活用するためには、イベント運営の段階から使い捨てプラスチックを減らす工夫を取り入れることが重要です。再利用可能な食器の導入やマイボトル・マイカップ利用の促進、プラスチック代替素材の活用、分別回収の徹底など、様々な取組が各地で進められています。



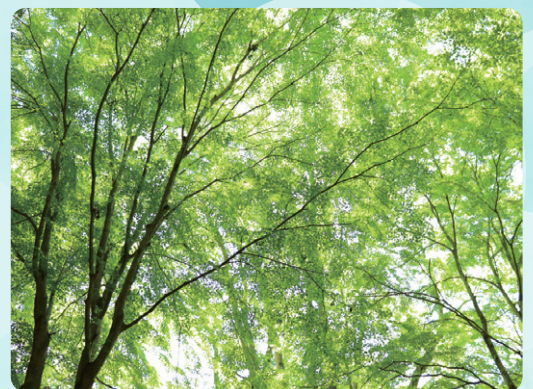
イベントなどにおける食品ロスの問題

食品ロス削減 取組



食品ロス削減
滋賀県キャラクター
よっしーくん

イベント会場では、多くの来場者に対応するために食品が多めに準備されることが一般的ですが、その一方で、売れ残りや食べ残しが発生しやすく、食品ロスの一因となっています。また、衛生管理上の理由から一度提供された食品は再利用できず、まだ食べられる状態で廃棄されるケースも少なくありません。こうした食品ロスは、限られた食資源の無駄につながるだけでなく、廃棄処理に伴う二酸化炭素の排出増加など、環境面にも影響をおよぼします。近年は、出店者や主催者が販売量の予測精度を高めたり、小盛りメニューを設定するなどの工夫に加え、来場者に「食べきり」を呼びかける取組も広がっています。イベントを楽しみながら、持続可能な社会づくりに貢献できるよう、一人ひとりの意識と行動の変化が求められています。



プラスチックごみ削減のために私たちができること

イベントなどで発生するプラスチックごみを減らすには、主催者、出店者、来場者それぞれの立場でできることがあります。小さな工夫の積み重ねが、大きな環境改善につながります。

主催者の 取組例

- 会場内に給水機やマイボトル洗浄機を設置し、マイボトル持参を促す。
- リユースカップ・リユース食器の貸出・回収システムを導入する。
- ごみステーションを分かりやすく設置し、分別案内のサインを掲示する。
- 出店者向け説明会で、ごみ削減や分別ルールを共有する。
- プラスチック削減の取組を広報物で発信し、来場者の理解と参加を促す。

出店者の 取組例

- 紙製や木製、バイオマスプラスチックなど代替素材の容器・カトラリーを活用する。
- 飲料のマイボトル対応を行う。
- 商品の包装を簡素化し、必要最小限にする。

来場者の 取組例

- マイボトルやマイカップ、マイバッグ、マイ箸などを持参する。
- 会場内の分別表示に従って、ごみを正しく分けて捨てる。
- SNSなどで環境配慮型イベントの取組を広める。



食品ロス削減のために私たちができること

イベントでは「おいしく・楽しく・食べきる」ことを意識することで、食品ロスを大きく減らすことができます。準備する側も、楽しむ側も、できることから取り組みましょう。

主催者の 取組例

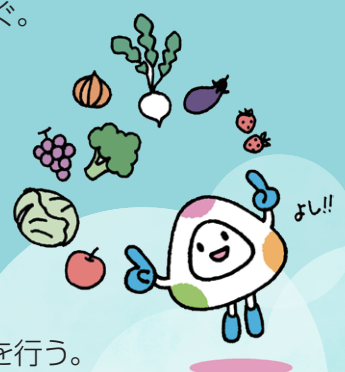
- 出店者と連携して販売量の見込みを共有し、過剰な仕入れを防ぐ。
- 小盛りメニューやハーフサイズの導入を推奨する。
- 食品ロス削減を呼びかけるポスターやアナウンスを行う。
- イベント終了後の未販売食品をフードバンクなどに提供する仕組みを検討する。

出店者の 取組例

- 天候や来場者数に応じて柔軟に仕込み量を調整する。
- 食材をできるだけ使い切る工夫(端材利用、メニュー転用など)を行う。
- 食べ残しを減らすために「小盛りメニュー」を設定する。

来場者の 取組例

- 食べきれる量を注文し、無理のないペースで楽しむ。
- 家族や友人とシェアしていろいろなメニューを少しずつ味わう。
- 食品ロス削減に取り組む店舗やイベントを積極的に利用、応援する。



プラごみ削減
取組

マイボトル洗浄機の導入

〈FILE〉

01



E U E N T

大阪・関西万博

取組背景

大阪・関西万博では、マイボトルの利用促進を目的として、「マイボトル洗浄機」を導入しました。この取組は、企業や団体により無償で物品やサービスの提供や貸与、役務提供による大阪・関西万博の参加メニューのひとつで、運営参加の特別プログラムであるCo-Design Challengeプログラムに採択され、実現したものです。

実施内容

会場内では、来場者が自身のマイボトルへ給水する前にその場で洗浄・除菌できるよう、給水機付近にマイボトル洗浄機を10台設置しました。(設置場所は、大屋根リング上2台、大屋根リング下2台、その他会場内6台)。洗浄機は、約20秒で飲み口とボトル内部の洗浄・除菌が完了します。洗浄にはオゾン水を使用しており、洗剤を使わない方式を採用。無料で利用できるサービスとして提供しました。



工夫ポイント

- 洗浄箇所を飲み口とボトル内部のみに限定し、使いやすさ・スピード・省エネを並立。
- 合成洗剤を使わず、オゾン水による除菌。
- 誤作動防止のため、ボトルを感知するセンサーを搭載。
- 5m以内に人が近づくとLEDパネルの“目玉”がまばたきし、存在をアピール。
- サイドパネルに吉野杉を使用し、木の温もりによる優しさを演出。
- 約20秒間の洗浄中に、LEDパネルで手順案内だけでなく、楽しさも演出。
- 海外の人にもわかるようにしたスタンダードタイプと、キャラクタータイプの2種の動画を用意。
- 洗浄終了時に「洗浄回数」や「CO₂削減量」を表示して意識向上を促進。
- 来場者が設置場所を容易に確認できるよう、博覧会協会公式ホームページで公開。

成果

使用回数: 合計158,488回 (10台総洗浄回数)

今後の展望(協賛者:象印マホービン株式会社、株式会社中農製作所、株式会社スタッフ)

各所での実証実験と改良を重ね、商品化を目指しています。



大阪・関西万博

- 開催日・期間 2025年4月13日～2025年10月13日
- 会場・場所 大阪・関西万博会場
- 担当 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
企画局 CDC・APチーム
- URL <https://www.expo2025.or.jp/>





E U E N T

大阪・関西万博

取組背景

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会では、万博開催期間中に会場で発生する廃棄物を削減するため、「資源循環勉強会」や「資源循環ワーキンググループ」を開催し、様々な対策を検討してきました。その中で、食品ロス削減対策としてフードシェアリングサービスの活用を検討。食品ロス削減アプリを協賛（運営参加）により募集し、導入が実現しました。

実施内容

万博会場内で食品を提供する飲食店、物販店が、売れ残りなど食品ロスとなり得る商品をWebアプリの「万博タベスケ」に出品し、会場内の来場者が購入予約できる仕組みを導入しました。購入者は予約後、お店で支払いと商品の受け取りを行う当日完結型のサービスで、出品者・購入者ともに無料で利用できます。



工夫
ポイント

- 出品は会場内の飲食店、物販店のみに限定。
- 位置情報を活用し、会場内の利用者のみが予約可能となるよう設定。
- 出品可能な時間帯や対象となる食品に一定のルールを設定。

成果

削減量／約917kg (出品個数／6,596個、購入数／5,799個 成約率87.9%、ユーザー登録数／28,342人)

今後の展望(協賛者:株式会社G-Place)

既に全国30自治体で展開している「タベスケ」とは別に、イベント会場や公共施設など限定的な空間で活用できる新たなフードシェアリングサービスとしての展開を目指しています。万博閉幕後は、大阪IRでの採用につなげたいと考えています。



大阪・関西万博

- 開催日・期間 2025年4月13日～2025年10月13日
- 会場・場所 大阪・関西万博会場
- 担当 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
持続可能性局資源循環チーム
- URL <https://www.expo2025.or.jp/>
- 協賛者 株式会社G-Place



プラごみ削減
取組

給水スポットの設置

〈FILE〉

03



E U E N T

大阪・関西万博

取組背景

大阪・関西万博では、来場者がマイボトルを日常的に持ち歩く習慣を広げることで、ペットボトルの廃棄量を削減するとともに、夏場を中心とする会期中の熱中症対策にもつなげることを目的に、会場内各所に給水スポットを設置しました。この取組は、企業や団体により無償で物品やサービスの提供や貸与、役務提供による大阪・関西万博の参加メニューのひとつ(運営参加)を活用し、給水機・ウォーターサーバーの設置を実施しました。

実施内容

会場内に最大70台の給水スポットを設置(開幕時60台、6月以降に順次増設)しました。
(内訳) 給水機36台、ウォーターサーバー34台。
来場者が自分のマイボトルに水を補給できる無料スポットとして運用しました。



給水器



工夫ポイント

- 給水スポットの設置場所を公式ホームページで公開し、来場者が容易に確認できるようにした。
- 一部の給水機には給水回数を測定できるカウンターを搭載。利用実績を“見える化”することで来場者の活用意欲を高める工夫を行った。



ウォーターサーバー



マイボトル洗浄機

成果

カウンターを搭載した給水機(31台)の給水回数:12,065,111回
タンク式ウォーターサーバーのタンク(12L)消費数:12,320個
※カウンターなしの給水機5台、給水式ウォーターサーバー14台を除く集計結果。



大阪・関西万博

- 開催日・期間 2025年4月13日～2025年10月13日
- 会場・場所 大阪・関西万博会場
- 担当 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
持続可能性局資源循環チーム
- URL <https://www.expo2025.or.jp/>



食品ロス削減
取組



食品ロス削減

スタッフ食事提供の工夫、長期保存可能な食品の採用
廃棄防止のための消費ルールの導入

〈FILE〉

04

第72回全国植樹祭

E U E N T

取組背景

令和4年に開催された第72回全国植樹祭では、「滋賀プラスチックごみゼロ・食品ロス削減宣言」を踏まえ、イベント全体で環境負荷の低減に取り組みました。中でも、食事提供における食品ロス削減を重点課題として位置づけました。

実施内容

スタッフ用の昼食には長期保存が可能な食品を採用しました。また、当日用意した予備のお弁当については、余った場合にスタッフ自身が消費する仕組みを設けることで、廃棄を出さない工夫を行いました。

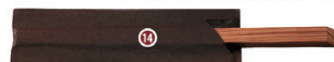


ぐるっと近江の恵みおもてなし弁当

県内各地の特産品や名物をぎゅぎゅとお弁当に詰め合わせました。
心づくしのおもてなし料理をどうぞお召し上がりください。



食物由来かつ生分解性の弁当容器を使用し、環境配慮に努めています。



① 近江牛じゅんじゅん

② 近江しゃもマリネ

③ 丁稚半盛

④ 糸切餅

⑤ みずかみ

⑥ 日野菜漬

⑦ 小松菜と水口かんぴょうの

細麻和え

⑧ いいたけのうま煮

乾梅海苔のせ

⑨ 小鮎の山椒煮

⑩ 枝豆ごはん（コシヒカリ）

⑪ ピワマスフレーク

⑫ えび豆腐

⑬ 赤こんにゃく煮

⑭

ーお箸についてー

比叡山延暦寺の御朱印帳製作の際に切り出した比叡山の雲木（スギ）の端材を有効活用し作りました。

食材協賛企業紹介

近江しゃも普及推進協議会
株式会社和たろ
甲賀農業協同組合
JA グループ滋賀
谷口治郎
乃利松食品 吉井商店
有限会社多賀屋
リュウセイ水産
レーク滋賀農業協同組合
（あいうえお、お米、お肉）

工夫
ポイント

- 昼食を長期保存可能な食品とすることで、急な人数変更や当日不参加が生じていてもロスを防止。
- 未使用分の長期保存可能な食品（パン・バームクーヘン・ようかん等）はフードドライブを通じて寄付し、社会的な再利用につなげた。
- 包装にも環境配慮型の素材を使用し、イベント全体でのサステナビリティを意識した。

成果・今後の展望

第72回全国植樹祭では、参加者用弁当・スタッフ昼食分共に食品ロスをゼロとすることに成功しました。今後はこの仕組みを他イベントにも活用できるようイベント運営モデルとして継承して行きます。

第72回全国植樹祭

- 開催日・期間 令和4年6月5日
- 会場・場所 甲賀市鹿深夢の森
- 実施団体名・主体 第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会
- URL <http://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/index.html>



プラごみ削減
取組



プラスチックごみ削減

環境配慮型資材の導入、使い捨てプラスチック削減

〈FILE〉

05

第72回全国植樹祭

E U E N T

取組背景

令和4年に開催された第72回全国植樹祭では、「滋賀プラスチックごみゼロ・食品ロス削減宣言」を踏まえ、環境負荷の少ない運営を目指して取り組みを進めました。その一環として、イベントで発生する使い捨てプラスチックごみの削減に努めました。

実施内容

参加者にご利用いただくバッグをコットン製バッグにしたほか、飲料提供では、ペットボトルの代わりにリサイクル可能なカートカン（紙製円柱容器）を使用しました。また、お弁当容器を植物由来100%かつ生分解性プラスチック製に統一し、使用後の廃棄負担を軽減しました。さらに、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの包装や容器などの使用もできる限り控えました。



工夫
ポイント

- イベント規模が大きい中でも、できる限りワンウェイ（使い捨て）プラスチックの使用を控え、実現可能な代替策を検討。
- 出展者や協力企業にも趣旨を共有し、全体で「プラごみゼロ」を目指す意識を統一した。

成果・今後の展望

第72回全国植樹祭では、会場内でのプラスチックごみ削減の実績を上げました。今後はこの仕組みを他イベントにも活用できるようイベント運営モデルとして継承して行きます。



第72回全国植樹祭

- 開催日・期間 令和4年6月5日
- 会場・場所 甲賀市鹿深夢の森
- 実施団体名・主体 第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会
- URL <http://www.pref.shiga.lg.jp/syokujusai-shiga2021/index.html>



プラごみ削減
取組

マイボトル持参の推進

〈FILE〉

06



E U E N T

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

取組背景

令和5年7月28日に「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ MLGs宣言」を行い、環境に配慮した大会運営を実施する方針が示されました。その取組の一つとして、大会を契機に観客や選手がマイボトルを持参する習慣を広げるため、会場にウォーターサーバーを設置、マイボトル利用を促す取組を進めました。

実施内容

開催当日は、彦根総合スポーツ公園内の10か所に合計28台のウォーターサーバーを設置し、来場者が自由に給水できる環境を整えました。また、国スポ・障スポの開会式では、マイボトルを持参された方を対象にガラポン抽選会を実施し、楽しみながら参加できる企画としてマイボトル持参を促しました。さらに、大会を契機としてマイボトル利用の定着を図るため、県内企業にも期間中ウォーターサーバーの設置協力をお願いし、広く県民への意識づけにつなげました。加えて、ウォーターサーバーの利用はマイボトルを基本としましたが、マイボトルをお持ちでない方にも環境配慮型のPLA樹脂（サトウキビ由来）を使用したオリジナルデザインのコップを用いて給水できるようにしました。

工夫ポイント

- ガラポン抽選会の告知も兼ねた「マイボトル持参の呼びかけチラシ」を事前配布し、来場者への周知を強化。
- 企業へのウォーターサーバー設置依頼を個別に行い、設置したウォーターサーバーを関西広域連合のWEBサイト「マイボトルスポットMAP」に掲載。大会との連携ポスターを掲示していただき、県民への認知度向上を図った。
- ウォーターサーバーで使用するPLAコップは国スポ・障スポのオリジナルデザインを採用し、記念性と普及効果を高めた。



成果・今後の展望

式典におけるウォーターサーバーからの給水実績（リハーサル含む）は約3,489リットルで、500mlペットボトルに換算すると約6,977本分の削減につながりました。また、ガラポン抽選会には延べ2,450人が参加し、事前告知の効果もあって多くの来場者がマイボトルを持参されました。これらの成果を踏まえ、今後は県内イベントや地域行事にもマイボトル持参の取組を広げ、持続的な行動として定着させていくことが期待されます。



湖国の感動 未来へつなぐ
**わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025**

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

わたSHIGA輝く国スポ

●開催日・期間 総合開会式：令和7年9月28日（日）／総合閉会式：令和7年10月8日（水）

わたSHIGA輝く障スポ

●開催日・期間 開会式：令和7年10月25日（土）／閉会式：令和7年10月27日（月）

●会場・場所 彦根総合スポーツ公園 平和堂HATOスタジアム

●URL <https://shiga-sports2025.jp/>



プラスチック削減
取組

リユース食器使用・分別の推進

〈FILE〉

07



E U E N T

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

取組背景

令和5年7月28日の「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ MLGs宣言」で、環境に配慮した大会を実施する方針が示されました。その取組の一つとして、飲食ブースでの使い捨てプラスチック削減を図るため、出店者にリユース食器の使用を依頼、来場者にはエコステーションでの返却を促すという、リユース食器を活用した分別・返却の仕組みづくりを進めました。

実施内容

国スポ・障スポの開催期間中は、約1万個のリユース食器を使用して飲食物を提供しました。会場内には、来場者が迷うことなく返却できるよう、各所に回収を行うエコステーションの誘導案内を掲出し、利用動線を整えました。なお、リユース食器には、繰り返し洗って使用できるポリプロピレン製のものを採用しました。



工夫ポイント

- 出店者募集段階から「飲食ブースは原則リユース食器を使用する」ことを明確に示し、協力が得られやすい状況を事前に整えた。
- エコステーションを来場者の動線上で目に入りやすい場所に設置し、ごみ箱や休憩所付近に誘導案内を掲示することで、自然に返却行動へつながる環境を整備した。

成果・今後の展望

国スポ・障スポでは、使用したリユース食器の返却率は約90%と高い水準を達成しました。今後は、大会を契機に県内イベントでのリユース食器活用を広げ、プラスチックごみ削減につながることが期待されます。



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く
国スポ・障スポ 2025

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

わたSHIGA輝く国スポ

● 開催日・期間 総合開会式:令和7年9月28日(日)/総合閉会式:令和7年10月8日(水)

わたSHIGA輝く障スポ

● 開催日・期間 開会式:令和7年10月25日(土)/閉会式:令和7年10月27日(月)

● 会場・場所 彦根総合スポーツ公園 平和堂HATOスタジアム

● URL <https://shiga-sports2025.jp/>





EVENT

滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭

取組
背景

本取組は、大学の学園祭で発生する割り箸ごみを削減することを目的に始めました。来場者に「Myはし」の持参を呼びかけることで、使い捨て資材の使用を減らし、ごみ削減につなげることを目指しています。

湖風祭の来場者に対してMyはしの持参を広く呼びかけ、持参された方には「Myはしバンド」を配布しました。このバンドを身につけていると、模擬店での値引きや増量、無料サービスなどの特典が受けられる仕組みとし、楽しみながら取り組める施策にしました。また、Myはしを忘れた来場者にはレンタルはしを販売することで、割り箸の使用を減らし、資源削減につなげています。



- Myはしバンドをつけた来場者が模擬店で値引き、増量無料サービスなどの特典を受けられるようにし、参加の動機づけを高めた。
- Myはしを持参していない来場者に対してはレンタルはしを販売し、割り箸ごみを削減する仕組みを整えた。

成果・今後の展望

2025年6月に開催された湖風夏祭では、来場者の80%以上がMyはし推進運動を認知しており、60%以上が実際にMyはしを持参していました。今後は、この運動の認知度を100%に近づけること、そしてMyはしの持参率を80%まで引き上げることを目標に、さらなる普及啓発に取り組んでいく予定です。



滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭

- 開催日・期間 2025年 6月7日(湖風夏祭)／11月1日・2日(湖風祭)
- 会場・場所 滋賀県立大学
- 実施団体名・主体 湖風祭実行委員会
- URL <https://kofoomail.wixsite.com/kofoosaizikkoiinkai>



プラスチック削減
取組

Dish Return Project(DRP)

〈FILE〉

09



E U E N T

滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭

取組
背景

Dish Return Project(DRP)は、洗って繰り返し使える皿を活用することで、ごみ削減につなげ、環境に配慮した学園祭を実現するために始められた取組です。使い捨て容器の使用を減らすことで、イベント全体としての環境負荷を軽減することを目的としています。

実施内容

模擬店の出店団体に対してリユース皿を貸し出し、飲食物をその皿で提供していただいています。来場者は飲食後に皿を返却し、その後、実行委員が洗浄を行って再び出店団体へ貸し出すという循環を繰り返しながら運用しています。これにより、イベント中に発生する使い捨て容器のごみを減らすことを目指しています。



工夫ポイント

- DRPに参加する模擬店団体の出店料を500円減額し、参加しやすい環境を整えた。
- 生協食堂に協力を依頼し、食堂の食洗機を利用して皿を洗浄することで、衛生面に十分配慮した。

成果・今後の展望

毎年約20団体がDRPに参加しており、学園祭におけるリユース食器の活用が着実に広がっています。今後はDRPの知名度をさらに高め、来場者自身のプラスチックごみ削減への意識向上にもつなげていくことを目指します。



滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭

- 開催日・期間 2025年 6月7日(湖風夏祭)／11月1日・2日(湖風祭)
- 会場・場所 滋賀県立大学
- 実施団体名・主体 湖風祭実行委員会
- URL <https://kofoomail.wixsite.com/kofoosaizikkoiinkai>



プラごみ削減
取組

ごみ分別

〈FILE〉

10



E U E N T

取組
背景

環境に配慮した学園祭を実現するため、エコプロジェクトの一環としてごみの分別を呼びかける取組を進めています。来場者とともに環境意識を高め、資源循環に貢献できる学園祭づくりを目指しています。

実施内容

年に二度開催の学園祭を通じてごみの分別活動に取り組んでいます。わかりやすく色分けされたごみ箱の設置などを通じて、来場者に対して分別への協力を呼びかけ、環境に優しい学園祭を目指して分別行動の定着を促しています。回収したごみは、その後あらためて実行委員が再分別を行い、より正確な分別処理につなげています。

工夫ポイント

- 目で見て分かりやすく、楽しみながら分別できるよう、色分けされた「ゴミら」というごみ箱を分別場所に設置した。
- 分別への理解を深めてもらうため、ステージで分別をテーマにしたショーを実施し、来場者への啓発を強化した。



成果・今後の展望

湖風祭を通じて、学内全体でごみ分別への意識が高まりました。今後もより多くの方に分別への関心を持っていただけるよう、継続して呼びかけと啓発活動を行っていく予定です。



滋賀県立大学 湖風夏祭 湖風祭

- 開催日・期間 2025年 6月7日(湖風夏祭)／11月1日・2日(湖風祭)
- 会場・場所 滋賀県立大学
- 実施団体名・主体 湖風祭実行委員会
- URL <https://kofoomail.wixsite.com/kofoosaizikkoiinkai>



ライフスタイルを見直そう。

滋賀県では、プラスチックごみの3Rやプラスチック代替製品の利用活用を促進する日として毎月1日を「しがプラチャレンジの日」としています。
私たちができるプラごみ削減活動を実践しましょう。

プラスチック代替
製品を選ぼう

マイバッグを
持参しよう

ごみはしっかり
分別しよう

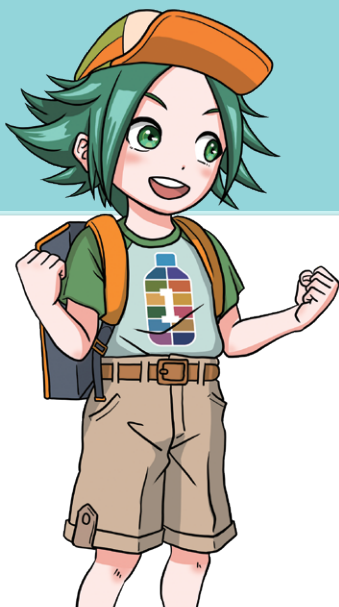
マイボトルを
使おう

店頭回収を
利用しよう

シャンプーボトルを
繰り返し使おう



毎月ついたり しがプラチャレンジの日



「しがプラチャレンジの日」って？

毎月1日を「しがプラチャレンジの日」とし、プラスチックごみ削減に資する行動をとる特別な日と捉え、日常生活を見つめ直し、ライフスタイルを切り替える機会とします。これまでの生活から一歩踏み出し、1つ1つ、できることからステップアップしてプラスチックごみ削減の取組にチャレンジしてみましょう！

「しがプラチャレンジ推進月間」って？

毎年10月を「しがプラチャレンジ推進月間」とし、行政や事業者・団体など、様々な主体が連携して集中的に普及啓発を実施します。これを機会にみんなが力を合わせて、プラスチックごみを出さない生活を目指していきましょう！

今月のプラチャレ
「プラチャレ通信」



詳しくは
こちら▶





滋賀県では、循環型社会の実現に向けた
3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進しています。
**プラスチックごみ削減等の
3Rに関する普及啓発動画公開中! ▶▶▶**
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/tvshiga/328059.html>



滋賀県ごみ減量資源化サイト
ごみゼロチャレンジしが

ごみゼロチャレンジしが

検索

<https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/index.html>



ご意見・お問い合わせ先

琵琶湖環境部 循環社会推進課 サークュラーエコノミー推進係

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1

[TEL] 077-528-3477 [FAX] 077-528-4845 [e-mail] df00530@pref.shiga.lg.jp